

目指す姿の実現ストーリー

三和グループは、災害や事故からお客さまを守り、お客さまに快適な暮らしを届けることを使命としています。

この使命を果たし続けるためには、三和グループは常にお客さまの期待に応えていかなければなりません。

言い換えれば、開発・販売・製造のみならず、施工してお使いいただいている間を含めて、使命への責任を求められているのです。

それらの責務を果たし、「安全、安心、快適」を世界に広げていくことが、私たちが目指す「高機能開口部」のグローバルリーダーの姿です。



目指す姿の実現ストーリー

「三和グローバルビジョン2030」の実現に向けて
2022年度からスタートした3ヵ年計画
位置づけ
気候変動やデジタル化で変化する社会のニーズに応える高機能開口
部ソリューションのグローバルリーダーへ向けた基盤を確立する

中期経営計画2024

数値目標
すでに2年前倒しで達成

売上高 5,800億円 CAGR +7.3%	営業利益 450億円 CAGR +8.2%	営業利益率 7.8%
ROE 13.5%	SVA 190億円	ROIC 17.5%

気候変動やデジタル化などで変化する社会のニーズに応える高機能
な開口部ソリューションをグローバルに提供し、サステナビリティ
経営と人材力強化によりすべてのステークホルダーから評価される
企業グループを目指します。

長期経営ビジョン 三和グローバルビジョン 2030

基本戦略

1. 日・米・欧・ア 世界4極体制でのコア事業の拡大、強化
2. 防災・環境対応、製品・サービスのスマート化による顧客価値創造
3. デジタル化とものづくり革新による生産性向上
4. M&Aを活用したコア事業強化と新規事業領域への拡大
5. サステナビリティ経営によりグローバルに評価される企業グループへ

三和グループの目指す姿

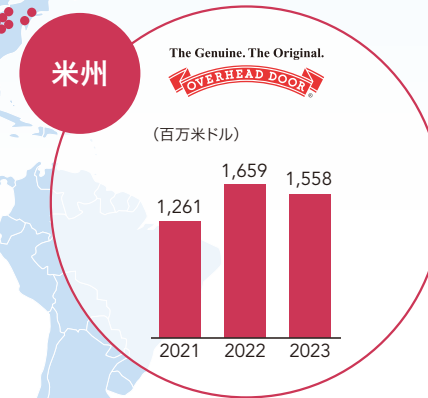
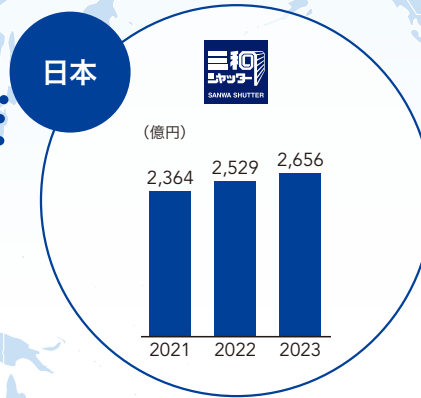
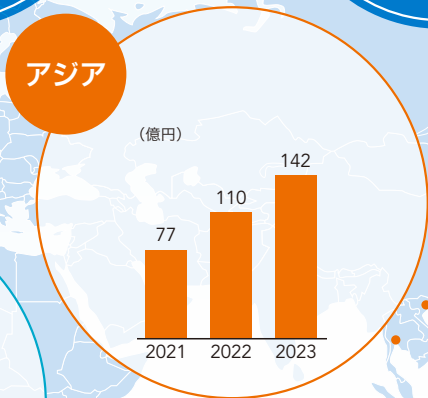
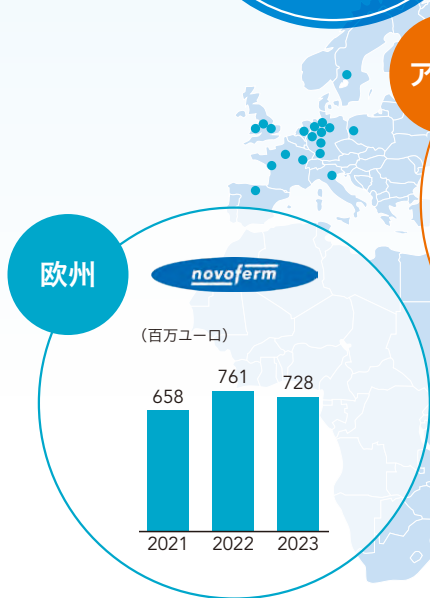
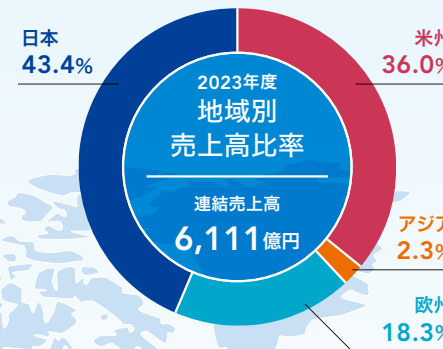
To be a Global Leader of Smart Entrance Solutions

～高機能開口部のグローバルリーダーへ～



At a Glance

1986年に三和シャッター（香港）を設立したのを皮切りに、三和グループは国内同業他社に先駆けて、グローバル化を進展させてきました。現在では、世界27の国と地域で事業活動を展開し、高機能開口部のグローバルリーダーとして、主要地域である、日本・米州・欧州では、いずれも強力なプレゼンスを確立しています。

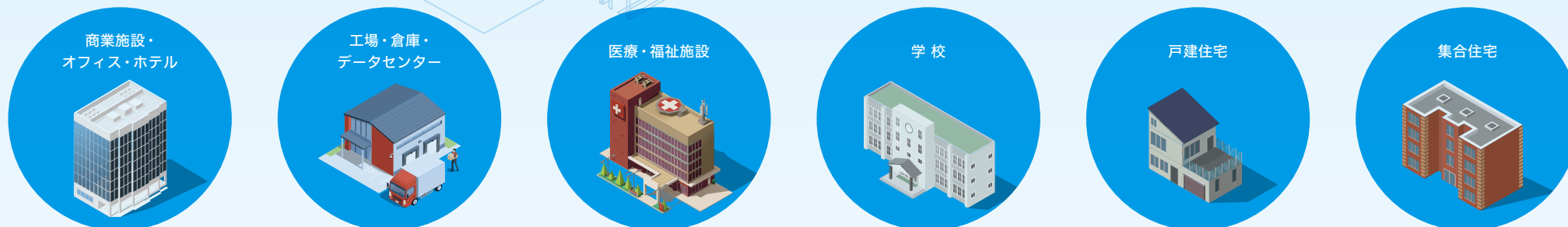


※各地域のグラフは連結売上高を示す

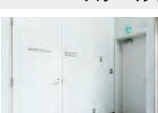
商品情報

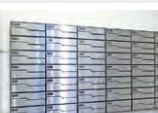
当社グループでは、グループ内でのシナジー創出に注力しており、さまざまなニーズに合わせ、あらゆる建築物における開口部に、「安全、安心、快適」が実現できるトータルな提案を行っています。

世界中のお客様に安全、安心、快適な商品とサービスをお届けすることで、人々の大切な暮らしを守り、より豊かで暮らしやすい社会の実現を目指します。



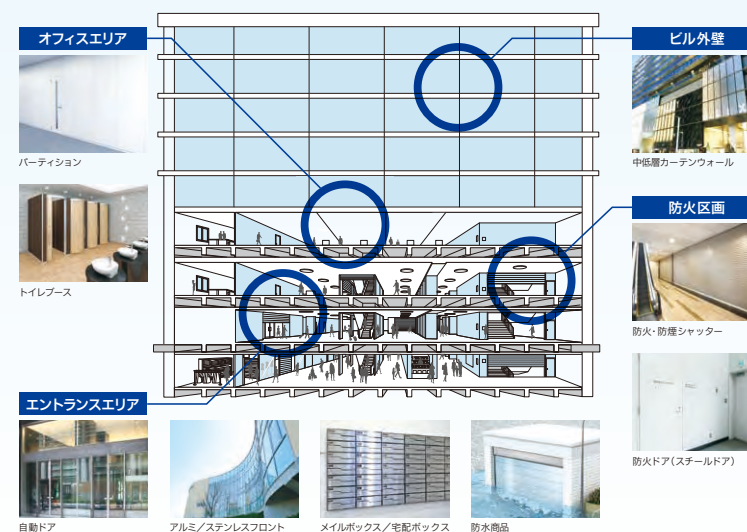
安全、安心、快適を広げる三和グループ商品

基幹商品	
シャッター  日本 1位 米州 1位 欧州 2位 アジア	セクショナルドア  日本 1位 米州 1位 欧州 2位 アジア
ガレージドア  日本 1位 米州 2位 欧州 2位 アジア	シートシャッター  日本 1位 米州 欧州 アジア
開閉機  日本 米州 2位 欧州 4位 アジア	スチールドア  日本 1位 米州 欧州 2位 アジア

多品種化商品	
間仕切  日本 2位* 米州 欧州 アジア	防水商品  日本 米州 欧州 アジア
アルミ/ステンレスフロント  日本 1位 米州 欧州 アジア	メールボックス/宅配ボックス  日本 2位 米州 欧州 アジア
自動ドア  日本 3位 米州 3位 欧州 アジア	軽量引き戸  日本 1位 米州 欧州 アジア

※トイレブース

ビルの中の三和グループ商品



目次

イントロダクション	
目指す姿の実現ストーリー	1
At a Glance	3
商品情報	4
価値創造ストーリー	
TOPメッセージ	6
価値創造のあゆみ	11
価値創造モデル	13
価値の源泉（インプット）	14
サステナビリティ経営	15
ステークホルダーへのアウトカム	16
三和グループの競争優位	17
価値創造事例	19
価値創造に向けた戦略	
三和グローバルビジョン2030	23
中期経営計画2024の進捗	24
財務戦略	25
人材戦略	29
地域別事業	
日本	31
米州	32
欧州	33
アジア	34
ESGマテリアリティに向けた取り組み	
ESGマテリアリティとKPI	35
気候変動への対応（TCFD提言への取り組み）	37
リスクと機会	39
ものづくり	41
環境	43
人	44
グループの経営基盤	
社外取締役座談会	45
役員一覧	49
コーポレート・ガバナンス	50
リスク管理	56
コンプライアンス	57
FACT & DATA	
10ヵ年サマリー	58
財務・非財務ハイライト	59
グローバルネットワーク	61
企業情報	62

三和グループは何を目指すのか

三和グループの目指す姿とグループの概要についてご紹介しています。

三和グループはどのように価値を創造しているのか

三和グループがどのような成長戦略を描いているのかをTOPメッセージにより説明し、歴史を紐解きながら価値創造モデルを解説しています。

三和グループは目指す姿にどのように向かっていくのか

価値創造に向けた戦略として、中期経営計画の進捗や財務戦略、人材戦略、地域別事業についてご紹介しています。

三和グループのサステナビリティとは

持続可能で豊かな社会の実現に貢献するためのサステナビリティの取り組みについてご紹介しています。

三和グループの経営基盤とは

三和グループを支えるガバナンス体制について、社外取締役座談会とともにご紹介しています。

コミュニケーションの全体像

	財務情報	非財務情報
対話	- 決算説明会 - 個人投資家向け説明会 - 事業説明会 - アナリスト／機関投資家向け個別ミーティング - 株主総会	ESGミーティング
報告書	- 有価証券報告書 - 決算説明会資料 - 中間報告書	統合報告書 重要な財務情報と非財務情報を統合した報告書 ESG Data Book 2024 ESGデータブック
WEB	IR情報  IR情報は こちらから	サステナビリティ情報  サステナビリティ 情報は こちらから

編集方針

本報告書は、当社グループの経営状況や事業概況、外部環境を財務・非財務の両面からお伝えする目的で制作しています。編集にあたってはIFRS財団が提供する「国際統合報告フレームワーク」、経済産業省の提案する「価値協創ガイダンス」、および「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」の提言などを参考にしています。

見通しに関するご注意

本報告書中の将来の見通しについては、当社が現在入手可能な情報から、本報告書の作成時点において行った予測をもとに記載しているもので、一定のリスクや不確実性を内包しています。したがって、実際の業績が本報告書に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おください。